



第152号

宮城県亶理農業改良普及センター

〒989-2301

亶理郡亶理町逢隈中泉字本木9

TEL 0223-34-1141

FAX 0223-34-1143

E-mail wrnokai@pref.miyagi.lg.jp

https://www.pref.miyagi.jp/site/wrnk/



さつまいもの収穫作業（株）おひさま村（「さつまいもの産地育成」課題関連）

農業普及活動の情報発信

宮城県亶理農業改良普及センター 技術副参事兼総括次長 加進 丈二

「普及センターだより」をご愛読いただき、ありがとうございます。本誌は、普及センターの活動や地域農業の動き、農業施策と関連制度に関する情報などをお届けするために、年3回発行し、関係者の皆様に配布しております。

普及センターでは、ホームページを通じた情報発信にも力を入れています。例えば、「亶理地域の農業普及活動」のページでは、地域の農業関連行事や普及指導活動に関する最新の情報をブログ形式で紹介しています。「栽培情報」のページでは、作物の生育状況に合わせた栽培管理のポイントなど、栽培技術に関する情報提供を行っています。高温や台風など、農作物への影響が懸念される気象予報が発表される場合は、事前の備えや事後対策をまとめた資料も掲載しておりますので、

ご活用ください。このほか、普及センターの普及指導活動に対する有識者等による外部評価の結果についても、ホームページで公開しております。これらの情報を是非ご覧いただき、普及センターへの関心と理解を深めていただければ幸いです。

スマートフォンの普及に伴い、情報収集やコミュニケーションの方法も大きく変わってきました。普及センターとしても、このような時代の変化に合わせた情報発信のあり方を考えながら、これからも、皆様の農業経営に役立つ情報提供を続けてまいります。

亶理農業改良普及センター
ホームページ →



地域
の話題

農業大学の先進農業体験学習終了式が開催されました

令和6年10月11日、当普及センターを会場として、農業大学校における先進農業体験学習の終了式が開催されました。本学習は農業大学校1年生が、先進的な農業経営を実践している農業者のもとで、33日間、農業技術や経営について学ぶものです。当普及センター管内では、水田経営学部、園芸学部及びアグリビジネス学部の9人の学生が、土地利用型や園芸経営をされている9経営体から指導を受けました。

開始式では、緊張の面持ちだった学生達ですが、終了式では達成感に満ちた様子が伺えました。学生からは「インターネットでは学ぶことのできない貴重な勉強をさせていただき、ありがとうございました」など、受入経営体にお礼の言葉が述べられました。受入経営体からも「最後までよく頑張りました。この経験を今後活かして欲しい」などのねぎらいと励ましの言葉がありました。

受入経営体の皆様の温かいご指導のおかげで、有意義で実りのある学習となりました。ご指導いただきました皆様に感謝申し上げます。



学生からお礼の言葉

地域
の話題

地域農業の将来の在り方を示す「地域計画」の策定が進んでいます

農業経営基盤強化法の一部改正（令和5年4月）に伴い、更なる人口減少や高齢化の本格化による耕作放棄地増加の懸念等を払拭するため、将来、一筆一筆の農地を誰が耕作するのかを地図化（目標地図）する地域計画の策定が義務化されました。

これに伴い各市町では、昨年度、農地利用に向けたアンケート調査の実施、地域農業の在り方を検討する協議の場の開催、目標地図の作成などの作業を進めてきました。本年度は、7月から11月にかけてアンケートの調査結果を反映した目標地図の素案をもとに協議の場を開催して、農業者の皆様と地域計画の内容について検討を行ってきました。

地域計画の策定期限が半年後に迫る中、10月には、関係機関による「地域計画策定に係る情報交換会」を開催し、各市町の取組状況や今後の策定スケジュール、留意点などの確認を行いました。

当普及センターでは、地域の实情に即した「地域計画」の策定が進むように支援していきます。



協議の場



情報交換会

地域
の話題

コーヒー残渣を使用したきゅうり土壌還元消毒

管内のきゅうり生産者は、主にホモプシス根腐病等の土壌病害虫防除対策として、10年程前から米ぬかによる土壌還元消毒（易分解性有機物を土壌にすき込み後に湛水状態にして土壌病害虫を防除する方法）に取り組んできました。

しかし、近年、米ぬかの価格高騰などで入手が難しい状況となり土壌還元消毒の継続が危ぶまれる状況となっていました。当普及センターでは、令和5年から大手飲料メーカーの協力のもと、コーヒー飲料製造時に排出されるコーヒー残渣を活用した土壌還元消毒の実証にJA名取岩沼と連携して取り組み、その高い防除効果と安価にコーヒー残渣を入手する仕組みを構築しました。令和6年には管内で11戸の生産者がコーヒー残渣を使用した土壌還元消毒に取り組み、本消毒前にホモプシス根腐病が発生していたほ場でも、病気の発生が見られず、きゅうりの安定生産に繋がっています。

当普及センターでは、引き続き安価な資材等を活用した新たな病害虫防除技術等の普及を進めていきます。



コーヒー残渣



コーヒー残渣を使用した土壌還元消毒

地域
の話題

巨理名取果樹振興協議会若手りんご生産者福島視察研修を行いました

巨理名取果樹振興協議会（事務局：当普及センター）主催で若手りんご生産者が栽培技術と果樹経営を学び若者同士の技術交流を目的として、令和6年10月24日に視察研修を行いました。

視察先の福島県農業総合センター果樹研究所（福島市）では、最近のりんご栽培に関する研究成果について果樹ほ場を視察し、省力樹形や高温対策などについて担当研究員から説明を受けました。2か所目の株式会社菱沼農園（福島市）では、りんごの栽培技術、もも、おうとう、ぶどうを組み合わせた果樹複合経営について学びました。管内の若手りんご生産者は日ごろから技術研鑽に熱心で自主的に技術交流を行っており、今回も果実品質や従業員の労務管理について質問するなど意欲的でした。

当普及センターでは、今後も若手りんご生産者の活動に対して支援を行っていきます。



福島県農業総合センター果樹研究所ほ場



株式会社菱沼農園

地域
の話題

令和6年度第1回巨理地域農業普及活動検討会を開催しました

令和6年8月28日に、普及指導活動の実施状況について、外部有識者等から活動手法や内容などの評価と課題解決に向けた助言をいただくため、令和6年度第1回巨理地域農業普及活動検討会を開催しました。はじめに、岩沼市内の農業法人を訪問して、メロン「クールボジャ」に関する活動を紹介し、実際の栽培状況を見ていただきました。その後、所内で、重点的に支援している活動を中心に、進捗状況や活動成果などを説明しました。

委員の方々からは、①メロン「クールボジャ」の技術継承に向けたマニュアル作りやさつまいもの育苗では、途中で起きた予期せぬトラブルに迅速な対応を行ったこと、②ほ場整備地区において、担い手への法人化支援や地権者等関係者への合意形成を目指した話し合いを丁寧に行っていること、③若手いちご生産者に対して、気候変動に応じた栽培管理技術の再構築を行っていることなどが評価されるとのご意見をいただきました。また、今後の活動に対するご助言もいただきましたので、これからの普及活動に生かしてまいります。



ハウス前にて説明



所内検討

お知らせ

祝・受章

齋藤勇紀氏「令和6年度農事功績者表彰」で「緑白綬有功章」を受章

巨理町の齋藤勇紀さんが、公益社団法人 大日本農会主催の「令和6年度農事功績者表彰」において、「緑白綬有功章」を受章され、令和6年11月14日に東京の赤坂インターシティAIRにおいて、同法人の総裁である秋篠宮皇嗣殿下ご台臨のもと、表彰式が開催されました。

本有功章の推薦基準は、「農業技術の研究・開発・普及、農業経営の改善・発展及び地域農業の振興に対する功績が顕著と認められること」としており、齋藤さんが、これまで水稻を主体に、地域農業の中心的な担い手として生産活動に取り組み、さらにほ場整備事業を推進するための土地利用調整推進協議会長等を歴任するなどの活動が評価されました。表彰式後の祝賀パーティーでは、総裁の秋篠宮皇嗣殿下から励ましのお言葉をいただきました。

農業経営の発展と地域農業の振興に向け、今後、益々、ご活躍なさることを祈念いたします。



齋藤夫妻揃って表彰式に出席



表彰式後の祝賀パーティー

農業士
の紹介

新任農業士のご紹介

宮城県では、次代の農業を担う人材の育成と地域農業の振興に貢献している農業者を「農業士」として認定しています。当普及センター管内では、令和6年度は、新たに3人が「農業士」として認定されました。

【指導農業士】

名取市 大友 寛志さん

土地利用型法人の農事組合法人U.M.A.S.I.の代表理事として、地域内の農地を維持し、効率的、安定的な法人を目指すため、水稻・大豆に加えて園芸部門や子実用とうもろこし等、新規品目も積極的に導入されています。

名取市 阿部 文博さん

地域の中核的な農業者として、養液栽培によるいちごを主体とした農業経営を展開されています。自宅及び栽培用ハウスは、交通量の多い道路に面しており、地の利を活かし、敷地内にいちごの自販機を設置するなど、直売にも取り組まれています。



認定証交付式を終えて

左から 橋本農政部長、松浦氏、大友氏、阿部氏
大沼亘理農業改良普及センター所長

【青年農業士】

名取市 松浦 正博さん

個別経営体から、1戸1法人の形態で法人化を図り、現在は、地域内の農地集積により、水稻・大豆・麦の土地利用型作物や施設きゅうり等の野菜のほか、6次産業化にも取り組む、株式会社MAMの代表取締役を務められています。

祝・受賞

令和6年度宮城県花き品評会の結果報告

令和6年11月8日に、宮城県花と緑普及促進協議会主催の花き品評会が、せんだい農業園芸センターで開催され、当普及センター管内でも数多くの方が入賞しました。おめでとうございます。また、品評会にご協力いただいた皆様にお礼申し上げます。

写真No.	品目名	品種名	市町	氏名(敬称略)	受賞
①	ばら	ソフィアローレン	名取市	丹野 岳洋	宮城県花と緑普及促進協議会会長賞(金賞第一席) 農林水産大臣賞
②	トルコギキョウ	パールラバンダー	名取市	前野 弘美	宮城県花と緑普及促進協議会会長賞(金賞第二席) 農林水産省農産局長賞
③	カーネーション	クリアウオーター	名取市	太田 伸也	宮城県花と緑普及促進協議会会長賞(金賞) 宮城県知事賞 仙台生花株式会社代表取締役賞
④	ひまわり	サンリッチマロン	名取市	丹野真知子	宮城県花と緑普及促進協議会会長賞(金賞) 宮城県園芸協会会長理事賞 株式会社仙花代表取締役社長賞
⑤	カーネーション	バビロン	名取市	太田 伸也	宮城県花と緑普及促進協議会会長賞(銀賞)

